

Azn
379

東西海上保險株式會社

創立手續

(定款ヲ除ク)

61

小牧太次郎
神谷市太郎



東西海上保險株式会社



創設

（定款ヲ除リ）

昭和十年七月五日
學生課ヨリ寄贈

小牧太次郎
神奈川県方

備考

本合社發起設立并開業

- 一 明治廿二年四月初旬發起
- 一 今年五月一日港務大臣ヨリ本社營業ヲ免許セラレタリ
- 一 今年五月初旬設立趣旨各等ヲ配付セリ
- 一 今年六月十日株式引渡済
- 一 今年六月廿五日一回株金拂上結了
- 一 今年七月廿五日創立總會開會東洋總代理及監査役撰任
- 一 今年七月廿七日各等記簿ノ上開業ス

設立主意書

漢カタル亞細亞大陸、東方建國ニ千五百有餘年、皇統連綿ト
 シテ以テ世界ノ義ヲナセル櫻華帝國ノ使命ハ夫レ如何東洋ニ於ケル
 世界ノ平和ヲ維持シ其商權ヲ掌握シテ以テ文明ヲ開拓スル是レ
 其使命ニヤラザルナキカ果シテ然ラバ是レ實ニ政治家怒世家ノ解釋
 事業ニ一任シテ實業人士ガ袖手傍觀以テ輕ク思諸付スルハキ
 ノコトナリトセンヤ十九世紀文明ノ奔達ハ滔々乎トシテ其停止スル所
 ナ知ラズ精神的物質的諸種ノ文物燦然トシテ奔輝シ科学ノ
 進歩ハ世界ヲシテ狹縮ナラシメ商業ノ奔達ハ各國ヲシテ相接近セ
 シムルニ至レリ吾國亦國ノ開テヨリ茲ニ三十有餘年而歐文運思
 波ニ沿スルヲ得テ國勢ノ伸張國運ノ隆盛振古其比ヲ見ズ
 文物樹蔚然トシテ奔達シ學術駁乎トシテ日ニ其進歩ヲ極ム誠ニ是
 レ喜ブベキノコトナリトナフト雅苟モ仔細ニ其内容ヲ觀察スル於テハ

蓋シ思ヒ牙バニ過グルモノアラシク我國文明ノ奔達ヤ蓋シ非常ニ長
足敏活ニテ以テ驚歎スルニ堪ヘタリトモト雖其進歩ヤ實ニ
政治文學科学ノ方面ニ一國經濟ノ骨髓ニシテ帝國使令
遂行ノ先導者タル商業ノ如キ其奔達頗ル速クテ萎靡振
ハズ以テ遂ニ前者ト相隨伴スル能ハザルモノアリトス而シテ此事實ヤ
實ニ我邦人ノ冷眼以テ對岸ノ火火視スベキモノニアラザルナリ夫レ
一國ノ盛運ヤ諸種ノ奔達互ニ相平行スルニアラズンバ以テ其日滿ヲ
期スベキニアラズトモ況ンヤ商業ノ如キ我國固具ノ隨一タルモノ
其衰退不振諸他文明ト相提携スル能ハザルガ如キニ蓋シ是
レ誠ニ國隆替ノ重事タルベキニ於テオヤ人アリ其右脚ヲ伸バシテ
以テ揚々其下歩ヲ進メタルヲ誇稱ストモト雖左脚ノ以テ之ニ伴フ
能ハズンバ何ゾ能ク其地位ヲ轉ゼリト稱スルヲ得ベケンヤ然リト雖
凡ソ事物ノ改良進歩ヲ企圖セント欲セバ須ラク先ヅ是ニ伴フノ

機關ナカルベカラズトスニ商業ノ種類ヤ千態萬狀一規以テ之ヲ律
スベカラズト雖其何レノ状態ニアルトモ尚ホ信用機關交通運輸
機關保險機關ノ如キニ蓋シ一日モ缺ゲベカラズル必須ノモノナリトス
信用運輸交通ノ機關ガ商業取引ノ上ニ密接ノ關係ヲ有スル
ガ如キニ故テ業々ヲ要セズトモト雖而カモ保險機關ノ如キニ層
一層至大ノ接觸ヲ商業上ニ有スルモノタルヲ思ハザルベカラザルナリ社会
均ニ危險担保損害賠償ノコトアルナカラシカ何レノ日カ日安々乎ト
シテ以テ海外萬里ノ通商ニ從事シ巨萬財貨ノ運送ヲ敢テスル
モノゾ是ニ於テカ高界保險事業ノ盛ナルモノアリ以テ其ニ商業ノ全
般ヲ窺フベシトナス然リト雖怨ムラクハ吾國信用運輸機關ノ如
キニ比較的大ニ奔達セルモノアリトモト雖保險機關殊ニ商業ト
ハ形影相前後スルノ海上保險事業ニ至テハ蓋シ其状態ヤ未ダ
大ニ完シトモト能ハザルモノアリ之レ豈ニ商業ノ沈滞敢テ振分

ル所以ニアラザルナキカ 既設会社ニテ 斯業ニ従事スルモノ 東京東
京海上保険株式会社アリ 帝國海上保険株式会社アリ 大坂ニ
日本海上保険株式会社アリ 日本海陸保險株式会社アリ 以テ各自
熱心其業ニ従事セリ 故ニ皮想之ヲ觀ルニ 於テハ 海上危險擔保
ノ如キ以上 凡會社之ニ任テ以テ 尚餘リタルガ如シトモツト 雖且是レ並
忍ハザルノ甚ニキモノナリトス 夫レ海運ノ奔達下共ニ 海上危險ノ漸時
増加スルガ如キニ 從來ノ劇歴之ヲ證シテ 餘リアリ 況ンヤ 近時海上
遭難事件ノ瀕々トシテ 相踵グモナルニ 於テオヤ果シテ 然ラズニ 我國
海上ニ一生面ヲ開キ 沿岸及ビ大洋ノ 貿易易ラシテ 愈々隆盛ニ 期
年ニシテ 東洋ノ英國タルヤキ 實蹟ヲ舉ゲント 欲セバ 須ラズ 海上
保險事業ノ 完養ヲ俟タザルベカラザルナリ 聞ク 在横濱ノ 外國
高館ニシテ 自己又ニ 他者ノ 代理店トナリテ 海上保險事業ニ 數掌
スルモノ 奧慮十數店ノ 多キニ 居リト 嗚呼 此一 事ヲ以テ スルモ

尚能ク 我國海上保險事業ノ 未ダ十分ナラザルヲ 證シ 其次 奔達ノ一
日モ 早カラシムコトヲ 欲スルノ 大事 實事ヲ 知ルヲ 得ヤキニ アラザルナキカ 况
ンヤ 大船ノ 航海大洋巨額ノ 貿易ニ 至テハ 勢ハ 同業者ヲシテ
共通擔保ノ 必要アラハルニ 切ナルモノナルニ 於テオヤ 我國今ヤ 漸ク
從來ノ 形勢ヲ 變ジ 十日十指以テ 商業ニ 向ヒ 異口同音以テ
通商ヲ 叫バザルハ 誠ニ 國家百年ノ 長計ニシテ 國人ノ 實
醒大ニ 喜ブベキガ 如シトモツト 雜言ニク 其聲ノ 大ナルニシテ 企
計ノ 敢テ之ニ 副フモノナクシバ 安ゾ 知ラン 洪水ノ 利益 只徒ラニ 外
人ノ 掌中ニ 握セラルノ 悲境ニ 至ルアラシク 吾等 茲ニ 見ルアリ
事ヲ 悵同共濟ノ 趣者ニ 甚キ以テ 一ノ 海上保險会社ヲ 設キ
聊カ 商業奔達ノ 上ニ 一臂ノ 力ヲ 致サンコトヲ 欲ス 其組織ノ 如
キニ 多年 保險ヲ 利用セル 實業者 船主及ビ 貨物主等ニ 由テ
以テ 成立シタルモノニシテ 而シテ 期スル所ニ 勉メテ 營業ノ 規模ヲ 廣大

ニ其精神ヲ永遠ニ保持シ以テ大ニ國家隆盛ノ資ニ供セン
ト欲スルニアリ且其收支調査ノ如キニ至ラハ既故会社ノ實際
ヲ及覆射斟酌シ過^去年^去多^去年ノ實情ニ基キ勉メテ消極的
ニ算出シタルモノナリトス希クハ天下経國愛民ノ士音等ノ微衷ヲ
興^ニシ^テ商業奔達ノ一機關タル本会社設立ノ精神ヲ諒シテ
以テ大ニ斯舉ニ賛成アラシム

發起人

森瀬修蔵
鈴木良郎
小田三三助
大倉市二郎

明治廿二年
五月

高木要三郎
松村虎二
天島定政
宮野謙三
平山定三

本社設立目論見梗概

第一 本会社は民法ノ船舶并ニ諸船舶ニ積載スル貨物
貨物及ビ船賃ノ保險其他一般海上保險ヲ以テ營
業ノ目的トス

第二 本会社は東西海上保險株式會社ト稱シ本店ヲ東京
神田區一橋通老番地ニ置ク

第三 本会社ノ資本金ハ五百萬圓トシ之ヲ資本萬五千株ニ分テ
一株ノ金額ヲ百圓トス

第四 本会社ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿五十年トス

第五 募集セル資本金ノ五分ノ四ハ危險準備トシテ之ヲ積ミ
立テ置キ五分ノ一ハ之ヲ營業上諸般ノ事項ニ流用ス

第六 危險準備金ノ五分ノ二ハ之ヲ銀行定期預金トシ五分ノ一
之ヲ當座預金トシ其他ハ有價證券等確實買入モノヲ以

ラ之ヲ保管積立ヲ置クヤシ

第七、本会社發起人、氏名住所并ニ各自ノ引受クベキ株数
ハ左ノ如シ

金額	株数	住 所	氏名
五十萬圓	二千五百株	東京橋区世間堀下目廿番地	森瀬修藏
五十萬圓	二千五百株	東京神田区小川町二丁目一番地	鈴木良郎
五十萬圓	二千五百株	東京神田区神保町三十五番地	小田三之助
四十萬圓	二千株	東京本郷区赤川町一番地	大倉市二郎
四十萬圓	二千株	府下荏原郡大井村三百廿五番地	高木要三郎
三十萬圓	千五百株	東京麹町区永田町一丁目廿番地	松村虎二
二十萬圓	千株	東京日本橋区小網町二丁目一番地	天島定政
拾萬圓	五百株	東京本所区横綱町一丁目五番地	宮野謙三

拾萬圓 五百株

東京牛込区細工町五十七番地

平山定三

明治三十二年

四月

本公司收支概算

東京海上、日本
附 諸保險会社實際表
海陸、雷海上

一 本公司、收支調査ニ專ラ我國貿易ノ大勢ニ鑑ミ、既設会社ノ實際降ニ徴シ、多年ノ實際情ニ基キ以テ勉メテ消極的ニ算出タルモノニシテ即チ尤ノ如シ



収入部

船舶 (内國共) 件數 (内國共) 二五〇〇 保險金額 一五、〇〇〇、〇〇〇 円

保險料 五〇〇、〇〇〇 円

貨物 (内國共) 件數 (内國共) 二〇、〇〇〇 保險金額 二〇、〇〇〇、〇〇〇 円

貨幣 (内國共) 件數 (内國共) 四〇〇 保險金額 一五、〇〇〇、〇〇〇 円

右貨物保險料 五〇,〇〇〇 日

右貨物保險料 二五,〇〇〇 日

資本収益 一〇〇,〇〇〇 日

雜收入 二〇〇,〇〇〇 日

季葉物收入 三〇〇,〇〇〇 日

合計 一,一七五,〇〇〇 日

支出部

船舶危險弁償金 四〇〇,〇〇〇 日

貨物危險弁償金 四〇〇,〇〇〇 日

貨物危險弁償金 一〇〇,〇〇〇 日

合計

再保險料 一〇〇,〇〇〇 日

割戻金 一〇〇,〇〇〇 日

營業費救助費等 四〇,〇〇〇 日

代理店手数料 五〇,〇〇〇 日

合計 一,〇九一,〇〇〇 日

附録

右は實際に参考し、便利トシテ東京海上保險株式會社、日本海陸保險株式會社及び帝國海上保險株式會社ノ既往四五年間實際ノ収及ビ支出表ヲ示ス

東京海上保險株式会社

廿七年		廿八年		廿九年	
收入	支出	收入	支出	收入	支出
一六六一、〇六九	一、二一六、五四一	一、六九九、九三一	一、六一七、〇〇一	一、一七九、八六七	一、四三〇、五二〇
一五五七、〇七一	一、五九五、五三六	一、六九七、〇〇八	一、八三三、四六一		

日本海陸保險株式会社

廿七年		廿八年		廿九年	
收入	支出	收入	支出	收入	支出
七〇、五六二	三五、四三二	一〇九六、五三〇	八三八、六三三		
二二六、六五五		二、一〇一、〇〇三			

帝國海上保險株式会社

廿七年		廿八年		廿九年	
收入	支出	收入	支出	收入	支出
一〇一、四〇二	六三、九四一	四九七、一四五	三九九、二四五	八三五、二五五	六五六、〇三五
三七〇、八六一	二四二、九七五			四七六、二八九	三一六、〇二三

右三商實際参考、便利トシテ以上三會社、既往四五年間於
 船舶貨物等保險ノ實際及ビ危險損失金表ヲ

示入但船舶貨物債幣中特ニ内國ト記載セラルル外ハ凡テ内國及外國ニ於テナシタルモノヲ併セタルモノニシテ且船舶中ニハ汽船及び帆船ヲ含包スルモノト知ルベシ

東京海上保險株式會社

廿六年			
種類	件數	保險金額	保險料
船舶	二三	五五六、〇〇〇	四、八〇〇
貨物	四〇、三三九	九九、四七、六二九	五九〇、三二一
貨幣	二二六	二、八七四、三九九	四、三二二
種類	件數	保險金額	保險料
船舶	三、三五四	二〇、三五二、九四四	七七八、七九四
貨物	四三、三二六	一三三、三三九、六五六	四九六、三三三
種類	件數	保險金額	保險料
船舶	一	一、三九〇	—
貨物	—	—	—
貨幣	—	—	—
種類	件數	損失并償金	—
船舶	—	—	—
貨物	—	—	—
貨幣	—	—	—

廿八年			
種類	件數	保險金額	保險料
船舶	二、四九九	一、六〇、六五七、三二四	六三三、一七一
貨物	六三、二二五	一、四〇、八六七、九〇〇	四九三、九三七
貨幣	二、八六	五、一六六、八六〇	六、六九一
種類 <td>件數 <td>保險金額 <td>保險料 </td></td></td>	件數 <td>保險金額 <td>保險料 </td></td>	保險金額 <td>保險料 </td>	保險料
船舶	一、九九九	一〇、九三三、〇九六	三、七二五、二〇〇
貨物	一〇三、三三六	一、九三三、八〇九、一三三	五、三九八、四〇四
貨幣	三、二二四	九〇、九四九、四	一、三三三、八
種類 <td>件數 <td>損失并償金 <td>—</td> </td></td>	件數 <td>損失并償金 <td>—</td> </td>	損失并償金 <td>—</td>	—
船舶	—	—	—
貨物	—	—	—
貨幣	—	—	—

廿九年			
種類	件數	保險金額	保險料
船舶	一、九九九	一〇、九三三、〇九六	三、七二五、二〇〇
貨物	一〇三、三三六	一、九三三、八〇九、一三三	五、三九八、四〇四
貨幣	三、二二四	九〇、九四九、四	一、三三三、八
種類 <td>件數 <td>損失并償金 <td>—</td> </td></td>	件數 <td>損失并償金 <td>—</td> </td>	損失并償金 <td>—</td>	—
船舶	—	—	—
貨物	—	—	—
貨幣	—	—	—

日本海陸保險株式會社

第十年		
船舶	二九六三	一九九七八、五八
貨物	五四、〇〇	二四、七九、五六、一
貨幣	七四八	五五、六七、六三、二
船舶	五六三九、四〇	八、九
貨物	七八、七、五	二、六、九、一
貨幣	七八、五、八	二
損失并償金	三一〇、一八三	
損失并償金	八六、四、八九	
損失并償金	二一三	

第六年		
種類	件數	保險金額
船舶	一七	三〇、四、五、〇〇
貨物	一四、四、五	一三、四、三、三、九、四
貨幣	四九	三、七、一、〇、八
種類	件數	保險料
船舶	一七	一、三、二、四、二
貨物	一四、四、五	四〇、八、三、八
貨幣	四九	二、九、六
損失并償金	七、三、二、四	

第七年		
種類	件數	保險金額
船舶	一四、七	一、五、二、三、三、一
貨物	四六、八、八	四、五、〇、八、四、八、九、八
貨幣	四六、八、八	四、五、〇、八、四、八、九、八
種類	件數	保險料
船舶	一四、七	六、六、四、五、四
貨物	四六、八、八	三〇、五、一、三
貨幣	四六、八、八	三〇、五、一、三
損失并償金	一、三、五、〇、〇	
損失并償金	四、一、二、〇、三	

第八年		
貨幣	一九三〇	三、四、五、五、〇、八
貨幣	一九三〇	三、四、五、五、〇、八
損失并償金	—	—

第八年		
種類	件數	保險金額
船舶	三三二	三、四、〇、四、五、三、四
貨物	三三〇、八	八、八、八、五、六、四、九、六
貨幣	五、四、八	二、六、五、四、九、六
種類	件數	保險料
船舶	三三二	一、八、四、六、八、四
貨物	三三〇、八	三、三、六、七、三、三
貨幣	五、四、八	四、八、八、〇
損失并償金	六、六、一、七、四	
損失并償金	一、三、三、六、一、五	

第九年		
種類	件數	保險金額
船舶	六〇、九〇	一、七、九、二〇、三、六
貨物	一、七、八、三、六	三、〇、三、九、三、三、三
貨幣	三、五、七	四、五、三、九、二、七、六
種類	件數	保險料
船舶	六〇、九〇	四、五、八、〇、三
貨物	一、七、八、三、六	四、五、七、九、九
貨幣	三、五、七	九、三、六〇
損失并償金	一、九、四、九、四、七	
損失并償金	二、八、一、五、〇、二	

第十年		
種類	件數	保險金額
船舶	—	—
貨物	—	—
貨幣	—	—
種類	件數	保險料
船舶	—	—
貨物	—	—
貨幣	—	—
損失并償金	—	—

帝國海上保險株式會社

年十		
貨幣	貨物	船舶
五八一	三四七五	一九四四
九五六七九	一九六三三八	二五八八四
一七〇三二	八三三九四	一〇三〇三六
—	三四一〇	二〇七
—	六七四七三八	六三五四〇五

年七廿		
貨幣	貨物	船舶
四	三七九一	七四
三〇〇〇〇〇	三八八三一六三	七八〇五〇〇
二六三	一八三三八	五〇一七三
—	八	一
—	一七一二	一〇〇〇〇

年八廿		
貨幣	貨物	船舶
—	二五八六	三四
三三七四〇六一	二七九二七八	一九八〇三〇
九九四一	—	—
六一	—	—
—	二四五三	—

年		
貨幣		
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—

年九廿		
貨幣	貨物	船舶
—	八三〇〇	五六五
—	七五二二四七〇	四〇五九九〇
—	二九六八七	二四二八〇
—	二八〇	二六
—	一〇九七六一	九七九四一

年三十		
貨幣	貨物	船舶
—	一三三二	七七六
—	一〇二二六三	五六九六五九
—	三九二七六	二九四九七一
—	三八二	四一
—	一三九二一〇	六七〇九八

營業員許願(定款ニ添ヘテ)

一、當会社依法、船舶并諸船舶積載スル貨物貨
幣及船舶債ノ保險其他一般ノ海上保險ヲ以テ營業ノ
目的トス

一、當会社於テ使用スル普通保險約款ハ末尾ニ付スルモノナリ
一、責任準備金ノ五分ニ之ヲ銀行定期預金トシ五分ノ一
之ヲ當座預金トシ残餘ハ確實ナル有價証券ヲ以テ之ヲ積
立ツルモノトス

右ノ角ニ脚座候也

東海^{海上}保險株式会社

發起人一同連名

明治卅三年

四月廿五日

農商務大臣宛

株式中止證(表面)

一.....株

右證拂金.....

貴会社設立、所主者ヲ替換シ右.....株相引受
申渡金額拂込、係ハ貴会社定款ノ定ル所ニ由リ
可申此般及申込美也

年月日

何某

東京保險株式會社發起人 御中

株式中止證(裏面)

一定款作製ノ年月日

明治三十二年四月十日

一目的

海上保險

一商號

東西海上保險株式會社

一資本總額

五百萬圓

一一株ノ金額

貳百圓

一取締役が有ル株ノ數

五百五百株以上

一本店ノ所在地

東京神田區一橋通一番地

一会社が公告ラヌ方法

時事新報及び官報於一週
間以上三週間以内ノ期間迄爲

回数ニ分ラ之ヲナス

一發起人ノ氏名住所

氏名	住所
木村健修藏	東京京橋區甘藷堀一丁目番地
鈴木良郎	全神田小川町二丁目番地
小田三之助	全神田神保町三丁目番地
大倉市二郎	全本郷區本町一丁目番地
高木半三郎	府六本木區大塚町三丁目番地
松村虎二	東京麹區区永田町一丁目番地
天島定政	全日本橋區小網町三丁目番地
宮野謙三	全本所區橋岡町一丁目番地
平山空三	全牛久保區千代田町一丁目番地

氏名

住所

一存立時期

開業ノ日ヨリ滿五十七年間

一解散事由

法律ニ規定セル外毎營業年年度

証券金設立後十年を経ルモ二年以上引
 續キ一割以上達セザル并及ビ赤瀬、鈴
 木、小田ノ三發起人共死セシ又破産
 禁治産ノ宣告ヲ受ケタル中

一 株式、額面以上、発行、

興シ

一 發起人が受ケル特別利益及び之ヲ受ケル者氏名
（金以外ノ財産ヲ以テ出資ノ自的者ノ氏名其
 財産種類價格及之ニ對シ其ノ株ノ數）

興シ

一 会社、負担、歸スベキ設立費用、

五萬圓

一 發起人が受ケル報酬額、

一人ニ付一萬圓

一 各發起人が引受タル株ノ數、

株數	氏名
二千五百株	赤瀬修藏
二千五百株	鈴木良郎

二千五百株	小田三之助
二千株	大倉市之郎
二千株	高木安三郎
千五百株	招村虎二
千株	天島定政
五百株	宮野謙三
五百株	平山定三

一 第一回拂込ノ金額、

金五拾圓

登記申請書

一、目的、

海上保險

二、商號、

東西海上保險株式會社

三、資本總額、

五百萬圓

四、一株金額、

貳百圓

五、公告の方法、

官報及時報新報於三箇月間
以上三箇月以內期間適當回数

ニ分テ之ヲス

六、本店、

東京神田區三橋通一番地

七、設立年月日、

明治廿二年五月一日

八、存立時期、

開業後滿五十年

九、解散事由、

法律ニ規定セル外毎營業年度、
純益金設立後十年ヲ経ルニ一年以上

引續一割以上... 修成鈴木良郎... 亡又破產... 禁治產... 自告... 受...

凡此

五拾日

十、各株付... 株金額、
十一、取締反... 監査反... 氏名住所、

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

右登記相成度別紙... 認證... 簿營業免許証創立總會... 認書謄本相添... 申請... 也

東也海原除株會社
取締反連署

明治廿二年七月廿七日

東京區裁判所宛